

治療期間を短縮！ 体に優しい手術・治療法が次々に開発されています

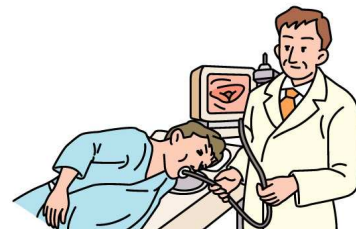
健康エクспレス No. 53

医療機器の発達により、皮膚を切開する必要がない手術や最小限の切開で済む手術が普及しました。このように体への負担が少ない治療は低侵襲治療と呼ばれています。今回は体にやさしい手術・治療法のご紹介です。

入院期間短縮に効果大！ 内視鏡による手術

(1) 内視鏡とは

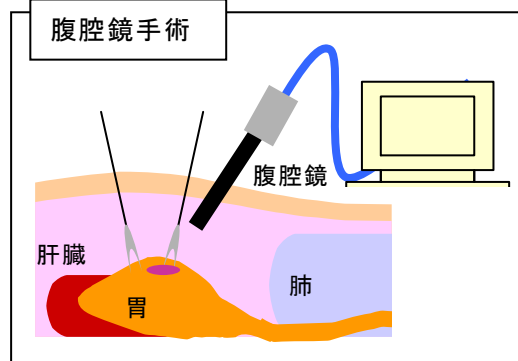
大リーガーの松井秀喜選手や女子マラソンの高橋尚子選手が内視鏡を使用した膝関節の手術を受けたとの報道がありました。内視鏡とは、先端にレンズのついた管を体内に挿入して患部を観察するための医療機器です。私たちに一番なじみ深い内視鏡は「胃カメラ」でしょう。胃以外には腸や肺、関節などさまざまな部位の観察と診断に使用する内視鏡が開発されています。さらには、口から飲み込んで排泄される間、胃や腸内の画像を観察できるカプセル型内視鏡の開発が進められています。



(2) 内視鏡を用いる手術

内視鏡には患部を処置・治療する器具を組み込んだタイプがあります。例えば、胃のポリープ(胃粘膜上の隆起)や早期の胃がんでは患部を内視鏡で観察しながら切除することが可能となっています。胃などの消化管に内視鏡を挿入し、内視鏡のみで行う手術では、皮膚を切開する必要がありません。そのため、開腹して行う手術より入院期間の短縮が可能です。

内視鏡をそのまま挿入できない患部の治療には、最小限の穴を人体に開けて、その穴から内視鏡を挿入して行う手術法があります。この手術法の1つに腹腔鏡手術があります。この手術では腹腔鏡という内視鏡を使用します。腹部に小さい穴を開け、腹腔鏡や照明装置、鉗子(かんし)、電気メスなどを差し込み、患部をモニター画像で確認しながら処置・治療する手術です。胃がんや胆のう、卵巣などの手術にこの方法を行うことがあります(右図、腹腔鏡による胃の手術の例)。その他、膝など関節の手術(関節鏡視下手術)や肺の手術(胸腔鏡手術)も同様の方法です。こうした手術では皮膚の切開部分が最小限で済むため、入院期間を短縮することができます。



血管内から患部を治療する

(1) 血管の病気を治療するカテーテル

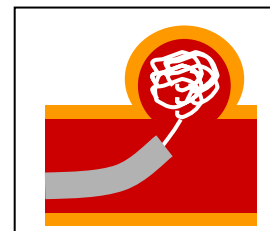
心筋梗塞は心臓の主要な血管である冠動脈の内部が詰まることで発症する病気です。心臓は生命に直接関わる臓器ですので、この病気の治療は早急に行う必要があります。胸部を切開して心臓を手術する治療が行われていますが、最近では太ももの付け根からカテーテルという細いワイヤーを入れて心臓まで到達させ、患部を治療する方法が開発されています。心筋梗塞の場合はカテーテルの先端に取り付けた器具で血管内部の詰まった部分を削ることや、バルーンという風船状のもので血管内部を拡張して、血流の回復を行います。このようにカテーテルを血管内に通して行う治療は血管内治療またはカテーテル治療と呼ばれています。脳梗塞の際にも同様のカテーテル治療が行われています。

脳のくも膜下出血の原因となる脳動脈瘤(瘤状に膨らんだ血管)の治療にもカテーテルが用いられています。カテーテルを脳動脈瘤まで到達させ、その先端から放出した細い金属製コイルを動脈瘤内に詰めて、破裂を阻止する治療法(右図・コイル塞栓術)が開発されています。

また、カテーテルを患部まで到達させ、直接、治療薬を入れる方法は脳やがんの治療で行われています。

(2) レーザー光線の利用も

足の静脈が拡張して瘤のように膨らんだ状態を下肢静脈瘤といいます。膨らんだ血管が皮膚の上から浮き出て見えます。中高年女性に起こりやすく、主に血管を切除する手術や静脈瘤を縛る手術などが多く行なわれます。他の治療法として、血管内から治療を行う方法があります。レーザー光線を通すことができる細いレーザーファイバーを血管内に通し、血管内からレーザー光線を照射し、静脈瘤を治療する方法が開発されています(健康保険は適用されません)。



皆様の安心と安全のブレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当: 八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 TEL:03-3582-4511